

「育水」から始まる「水」のブランド化



八ヶ岳南麓にある川俣川渓谷の吐竜の滝(北杜市大泉町)

山梨は、富士山や南アルプス、八ヶ岳などの名峰に囲まれ、森林が県土の約8割を占める自然豊かな県です。そうした自然が育む山梨の「水」は、生産量日本一のミネラルウォーターや、果物、日本酒、養殖魚などの県産品、湖や渓谷などの景勝地を創り出しています。県では豊かで良質な水を将来にわたって守り、その名水をブランドとして発信していく、さまざまな取り組みを行っています。



9月19日を「育水の日」と制定

山梨が誇る豊かな名水は、雪解け水や雨水が標高2000〜3000級の山々に染み込み、長い年月をかけて伏流水(地下水)となり、私たちの生活を潤してくれています。県ではこうした豊かで良質な水を地域資源と位置付け、平成28年3月に「やまなし『水』ブランド戦略」を策定し、水を生かした本県のイメージアップ、地域・産業の活性化を図ることにしました。

この水ブランド戦略は、健全な水循環を守り育てる『育水』という考え方に基つき、水を育む森林の整備・保全を通じ豊かな水对未来につなげる「育水の推進」と、水の魅力や水に関連した県産品や観光などの情報を国内外に伝えていく「育水の発信」の2本柱で策

定しています。また、この取り組みは行政だけでなく、県民や企業などに関わりながら行われていることが評価され、平成29年度全国知事会の「先進政策バンク」の優秀政策に選ばれました。県では、今年度、9月19日を『育水の日』と定め、育水の日前後には「やまなし育水推進県民大会」をはじめ、水関連企業と連携した各種イベントも展開しています。育水の日制定を機に、今後も「天に選ばれし、名水の地。山梨。」にふさわしい、育水の取り組みを推進し、水ブランド力の向上を図っていきます。

9月19日は
育水の日



「天に選ばれし、名水の地。山梨。」と誇れる、そのわけ

育水に関わる研究の情報共有や連携、長期的視点に立った水資源の保全と有効活用などについて検討する「やまなし育水研究会議」の委員である、山梨県富士山科学研究所・研究管理幹の内山高さんに山梨の水の魅力についてお話を伺いました。

さまざまな特徴を有する山梨の水

山梨の水が名水と言われるわけは、まず豊かな自然環境が残されていて、植林された森には人の手が入り適切に整備されるなど、水源の森がしっかりと守られていることが挙げられます。さらに山梨にはさまざまな種類の岩石があり、その岩石に水が染み込み、時を経て湧き出てくることで、それぞれ異なる特徴を持つ水が生まれていることです。岩石の種類は大きく分けると三つです。一つ目は甲斐駒ヶ岳や昇仙峡などの花こう岩、二つ目は富士山、八ヶ岳、茅ヶ岳などの火山に由来する岩石、三つ目は南アルプスなどの堆積岩です。花こう岩にはミネラルが多く、堆積岩には温泉の成分が入っています。一方、同じ火山であっても八ヶ岳の水は安山岩という溶岩層を通るため適度なミネラル分を含み、富士山は玄武岩という溶岩層を通ることから



山梨県富士山科学研究所 研究管理幹 内山 高

バナジウムを豊富に含みます。このように多様な特徴を持った水があることは全国でもまれなことで、山梨が名水の地として、誇れる理由です。

清らかなで豊富な水をたたえる天然の水がめ

山梨は晴天率が高く、雨はそれほど多くありませんが、周囲を山に囲まれ森林面積が広いいため、山に降る雨や雪が十分に蓄えられているのです。さらに水田があることで地下水が保たれ、水がうまく循環しているのです。山梨がミネラルウォーター生産量日本一であるのは、量の豊富さと採水

山梨県の「名水百選」と「平成の名水百選」

県内の7カ所が名水の産地として選出されている。この数は、全国で3番目に多い。

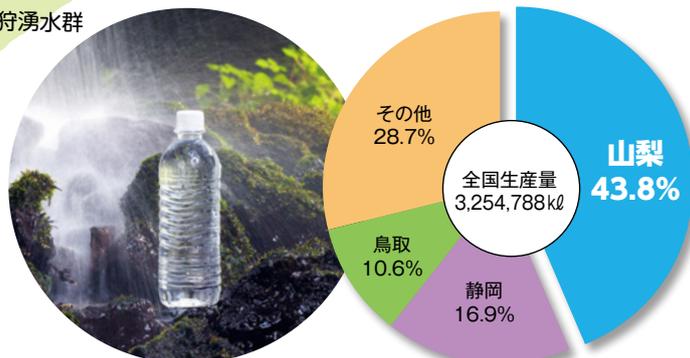
※名水百選とは…環境省が全国にある清澄な水について、その環境保全の推進などを目的に選定



※選定された名水は、飲用に適することを保証するものではありません。

しやすい立地条件や大消費地である東京などへの輸送の利便性、さらに自然公園が多く採水地より上に位置する地域の開発が制限されることなどから環境が守られ、きれいな水が採れることが大きな理由です。私たち県民は普段からこの名水をさまざまな場面で活用しています。自分の周りにはある水の魅力を再認識していくことで、山梨の素晴らしい水がこれからも育まれていくことにつながっていくと思います。

ミネラルウォーター生産量 (平成29年)



出典：一般社団法人 日本ミネラルウォーター協会



県民、行政、企業の連携による「水」ブランドの確立

豊かできれいな山梨の水を生かして、本県のイメージアップをはじめ、地域経済の活性化や地域産業の振興を図るため、県民、行政、企業が連携し、「育水」という考え方を基本として、「水」ブランドの向上を目指しています。

「水」のブランド化から広がる可能性

今年度より「天」に選ばれし、名水の地。山梨。「プロジェクト」事業を開始しました。県の取り組みに賛同していただいた企業と連携し、民間資金を活用して水ブランド発信事業を展開するなど、事業を通して山梨県全体で「水は山梨の強み」であるとの意識を高め、水のブランド化につなげることを目的としています。今年度定めた「育水の日」もその一環で、育水を広く浸透させるため「水」をテーマとした



森林環境総務課 原川 理 主査

イベントを企業と一緒に開催しています。また、昨年度には、水の恵みを動画でPRする取り組みも実施し、国内外に広く発信しているところ。さらに学生など一般の方々の柔軟な視点から、新しい水の魅力に光を当てた研究を募集する「やまなし」水ラボプロジェクトも今年で2年目を迎え、若い世代の皆さんの水への関心も深まってきています。

今、山梨では水ブランド確立に向けて地域の自治体と企業の連携が生まれてきています。この機運を県としてもサポートし、さらに盛り上げていきたいと考えています。県民の皆さんも武田信玄や果物などと並ぶ山梨のスターの一つに「水」があることを自慢してほしいと思います。

やまなし「水」ラボプロジェクト

県では県内の高校、大学、NPOなどが行う山梨の水に関する多様な研究に助成し、その成果を育水、水の価値や魅力の発見につなげるための取り組み「やまなし」水ラボプロジェクトを実施しています。今年度採択された7団体の中から、山梨英和高校と未来計画研究社（山梨大学地域未来創造センター内）の研究内容を紹介します。

清涼な水環境を好むミズダニ類の県内分布状況を研究 — 山梨英和高校 —

スーパースイェンスハイスクール

(SSH)に指定されている山梨英和高校は、さまざまな課題研究に取り組む中で、これまでも指標動物としてササラダニ類を用いて県内の土壌の環境調査を継続的に行ってきました。そのような中、生物が好きな一人の生



ミズダニの種類の一つ ヒラタダニ

徒がダニは水の中にもいて、色もきれいで「水の中の宝石」ともいわれていることに興味を持ったことから今回の研究が始まり、現在2年生4名で活動しています。人間に害を及ぼすことのないミズダニは、河川や地下水、湖沼、海などのきれいな水域に生息するため、どれくらい、どのような種類がいるかを観察・調査することで、ミズダニが水質の新たな指標動物に成り得ると考え、県内の河川での採取に取り組んでいます。

これまで県内35カ所で採水を実施し、15属105頭の採取に成功。今後は調査数を増やし、さらに精度を上げ、県内の大学などとの連携を図りながら研究を深め、県民の皆さんに水環境に興味をもってもらい、水ブランドの新しい可能性を広めていくことを目指していきます。



「水ラボプロジェクトの助成を受けたことで、活動の幅がさらに広がり、山梨の水に関わる環境保全にもつながる発見が期待できます。そして、きれいな水にすむミズダニのかわいさもPRしていきたい」と話す、生徒たちと顧問の山本純治教諭



富士山の天然水をブランド化して 公民連携により地域振興を図る

私は、富士山の水が世界一きれいで、おいしくて、豊富であることに誇りを持っています。そこで、地域の宝であるこの名水を守り続けるために、富士吉田市を拠点とするミネラルウォーター製造会社6社で平成28年5月、「富士吉田ミネラルウォーター保全協会」を設立しました。また、最近では、企業と行政が一体となり育水を進め、産業としても発展させなければといった動きも出てきま



採水地の環境が守られている富士北麓



富士山の天然水の聖地富士吉田公民連携協議会
理事長 粟井 英朗さん
富士山の銘水(株)代表取締役社長

した。そこで、ミネラルウォーター製造会社だけでなく、農業や織物など水を利用している他の産業と共に富士吉田市と連携し今年6月、「富士山の天然水の聖地富士吉田公民連携協議会」を設立しました。

協議会では、富士山の天然水のブランド力を強化し、関連企業の国内外の販売拡大を図ること、また収益の一部を地域課題の解決に活用し富士山を愛する多くの人々と共に、自然環境や景観を保全する活動を行っていきます。

地域の発展の源は、きれいな水、きれいな空気、つまり富士山から享受している自然の恵みです。この地域の魅力を全ての業界が一致団結して広めていきたいと思っています。

湧水によって生じるコーヒーの味の違いを研究 — 未来計画研究社(山梨大学地域未来創造センター内) —

山梨大学地域未来創造センターの杉山歩特任准教授(山梨県立大学国際政策学部講師)と共に、4年ほど前から地域のお祭りでカフェを出店している学生たちは、早川、南アルプス、八ヶ岳などの湧水を使ってコーヒーを入れることを思い立ち、コーヒー豆と県内各地の湧水の相性を自分たちなりに調べ始めました。山梨にはさまざまな特徴を持つ水があることを知った学生たちは、アンケートや味覚センサーによる定量評価など、さまざまな調査を行いました。中でもコーヒー、緑茶それぞれの専門家へのインタビュー調査から、湧水によって生じる味の違いについて興味深い結果が得られ、ブランド化に向けた方向性を見つけました。昨年度の研究では単一の



山梨の湧水と嗜好飲料の魅力进行分析、専門家へのインタビューも掲載した冊子「OASIS」も学生たちが作成



「嗜好飲料を通して水のブランド化につなげたい」と意欲あふれる学生たちと杉山特任准教授(左)

コーヒー豆だったので、今年度は複数の産地や焙煎度合による相性を分析することで、特徴を明確化にして、それぞれの湧水のブランド化につなげることを目標にしています。

さらにおいしい水とコーヒーの相性を追求して、山梨に新しいカフェ文化を広めていくことも目標の一つ。今後は食品も研究対象に加え、さらなる山梨の水のブランド力強化を目指していきます。